千葉工業大学 津田沼キャンパスでの開催は中止，Web 講演集記内容の研究発表を実施

Text ● 関東支部長／大会実行委員長 **岡部 徹**
（正会員 東京大学 生産技術研究所）

今年度の春季大会は，千葉工業大学津田沼キャンパスを会場として2020年3月15日（日）～3月17日（火）の3日間にわたり開催される予定のところ，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防の観点から，集会方式での大会は中止されました。

コロナ禍がなければ，3日間を通じての大会参加者数は，正会員約250名，学生会員約50名，非会員約150名の計450名程度の参加者を見込んでおりました。

しかしながら，新型コロナウイルス感染者数が急増している状況を受け，当時の月橋会長，尾原副会長，澤村副会長はじめ，大会運営関係者と多角的な視点からの意見交換を重ね，最終的には集会中止の判断となりました。月橋会長は，2月21日の第1回開催検討会議の直後には，他の学会の動向もヒアリングした上で，中止という苦渋の決断をしておられたようです。

2020年度春季大会の集会中止の判断をする上で，最も気を遣って議論したのは，すでにエントリー（発表登録）している約150名の発表者に対して，発表実績やオリジナリティの占有権をどの程度保障すべきか，という点でした。

この観点から発表者の希望に沿うべく様々な議論を行なった結果，「講演・発表要旨およびWeb講演集は予定通り公開し，2020年度春季大会での講演・ポスター発表登録者は，講演・発表要旨およびWeb講演集記載の範囲においてのみ研究発表がなされたものとし，2020年度春季大会での研究公表実績として認定する」ということになりました。

この結果，春季大会においては，発表登録者は，講演およびポスター発表ならびに質疑応答はできませんでしたが，「講演・発表要旨およびWeb講演集記載の範囲において研究発表が行われた」こととなりました。春季大会は紙上およびWeb上で開催したものと見なすという決定は，発表者のオリジナリティおよび発表実績を保障することになります。特に学生や若手研究者にとっては，発表実績を積むことができるという点で，重要な意味を持ちえます。

一方で，学会発表に対して，教育効果や宣伝効果に重点を置いている者からみると，難しい問題が多いのも事実です。例えば，春季大会で発表を行う予定であった内容を，秋以降の大会で発表しようとすると，「すでに発表している内容」について再度発表することになり，「二重投稿」となってしまいます。

次回の秋季大会は，東北支部のメンバーを中心として，東北大学で開催する予定です。コロナ禍が終息しない状況下でどのように行うかは，実に悩ましく，多くの困難が予想されます。WEB開催も視野に入れていかざるを得ないかもしれませんが，学会，特に地方で行う秋季大会の本質的な意義も考慮しなければならないため，大会運営者のご苦労は察するに余りあります。

最後になりましたが，本大会の遂行に当たりまして，副実行委員長として大変お世話になりました千葉工業大学教授の小山和也先生をはじめとする同大学の先生方ならびにアルバイトとして大会運営に貢献して下さる予定であった学生の皆様に心より感謝申し上げます。大会開催の準備を周到に進めていただいたのにもかかわらず，結果的に中止せざるを得ないこととなり，会場予約のキャンセル等の様々な仕事をお願いすることになってしまいました。

本大会の実行委員長（関東支部長）として，関係者皆様方の多大なご協力，ご支援に感謝申し上げます。